

## 第15回 日本在宅医学会大会 プログラム別 詳細情報

カテゴリー	一般演題口演
タイトル	在宅医療における病診連携の検討
日時	平成 25 年 3 月 30 日 11 : 30~11 : 40
会場	第 8 会議室
座長	放送大学 田城 孝雄先生
演者	医療法人社団健社会レシャード医院・レシャード カレド先生
企画趣旨	<p>目的：在宅医療において病床を有する病院の緊急時のサポート体制は不可欠である。一方では、病院の長期入院を回避するためには積極的な在宅医療への転換が診療所の重要な役割である。そして、日常生活や診療においては他の医療や介護サービスの利用も欠かすことが出来ない。このような役割分担と連携を検討して報告する。</p> <p>対象と方法：過去 6 年間で在宅医療を行った 191 例に 1838 回の訪問診療を行った。公立病院への紹介、公立病院から逆紹介の回数、利用したサービスの回数を検討の対象とした。</p> <p>成績：病診連携において当診療所から公立病院への紹介患者は 6 年間の期間において計 689 例を数え、逆紹介は 778 例であり、診療所同士の紹介患者は 253 例、逆紹介は 235 例であり、年々増加傾向にあった。一方では、在宅医療の患者が利用した訪問介護サービスは全体の 73.5%に、訪問看護は 38.7%の患者が受けていた。訪問看護サービスの利用率が少ない背景には当地域において訪問看護ステーションの数が 3 か所しかないのが誘因と思われる。その他に利用されていたサービスとしては訪問リハビリテーション、ショートステイサービスや訪問入浴などであった。</p> <p>在宅死亡率は平成 21 年に流行った新型インフルエンザの死亡例を除くと平均 58.7%で、施設の死亡を合わせると 67.4%あった。</p> <p>考察と結論：昨年当学会で発表した島田市における公立病院と医師会の病診連携システムの効率的な利用が上記のような病診や診々連携の増加の誘因になっている。在宅医療におけるこのような総合連携は在宅診療の普及や充実に多大な効果を上げることは言うまでもない。しかし、地域によっては医師不足が顕著で、訪問診療を行う余裕がないことが今後の課題である。そして、訪問診療の補助に欠かすことのできない訪問看護の不足が一層その普及の妨げになっている。</p> <p>以上、当医院の在宅診療の現状を分析し報告する。</p>